



NCB 海外レポート

シンガポール

スマート・シティ「シンガポール」の都市風景⑯

～建国 60 周年を迎えて シンガポールが築く未来～

◇ はじめに

- 2025 年にシンガポールは建国 60 周年を迎えました。街中では祝意を込めた「SG60」の文字が目立ち、建国記念日である 8 月 9 日前後は、お祭りムードに包まれました。
- シンガポールにとってこの 1 年は、「Building Our Singapore Together」とのテーマの下、単に 60 周年を祝うだけでなく、国民が一体となって国の未来を築いていこうという姿勢を示す年となりました。

◇ さらなる成長を目指す キーワードは「生産性向上 × 高付加価値化」

- 世界経済の不透明感が増す中、シンガポールでは経済戦略の刷新と国の競争力強化が重要な課題とされています。
ローレンス・ウォン首相(53 歳)は、建国 60 周年の祝賀メッセージにおいて、人口約 600 万人の小国が今後も成長を続けるためには、世界の変化に迅速に適応し続けることが不可欠であると強調しました。
- 具体的な施策としては、AI やロボティクスなどの新技術活用が挙げられています。これらのツールを個人レベルで十分に使いこなせるよう、国が積極的に支援していく方針が示され、政府は、米オラクルやアマゾンなどの大手 IT 企業と連携し、国内の社会人や高等教育機関・大学の学生を対象とした AI 人材育成を推進しています。
- 天然資源に乏しく、人材を最大の資源と位置付ける同国にとって、国民一人ひとりの「生産性向上 × 高付加価値化」は、今後も重要なテーマです。



(祝賀の様子 / シンガポール駐在員事務所撮影)

◇ 企業に求められる産業の高度化

- 生産性向上・高付加価値化が求められるのは、人材だけではありません。シンガポール政府は製造業の高度化を目指し、「Manufacturing 2030」なるロードマップを掲げ、2020 年から 2030 年までの 10 年間で製造業の付加価値を 50% 引き上げようとしています。
- 製造業は同国の GDP の約 20% を占める重要な産業です。政府はこの目標達成に向け、航空宇宙、半導体、バイオ医薬品、医療技術、特殊化学品など、高付加価値分野への研究開発・インフラ整備の資金支援や企業誘致を積極的に進めており、知識やイノベーションを集約する R&D 拠点として、高度人材の雇用創出につながる好循環を生み出そうとしています。

◇ おわりに

- 独立当初は主だった産業も少なく、労働集約型の製造業を中心に発展を目指していたシンガポールは、短期間で大きな成長を遂げ、現在では東南アジアにおけるイノベーションのハブへと進化しました。その成長の過程において、日本企業が果たしてきた役割も決して小さくありません。
- 2026 年は、シンガポールと日本の外交関係樹立 60 周年に当たります。両国の良好な関係の更なる発展に向け、日本の企業・人材も共に進化していくことが期待されています。

2025 年 12 月 18 日

シンガポール駐在員事務所 作成